



2025年度

事業報告

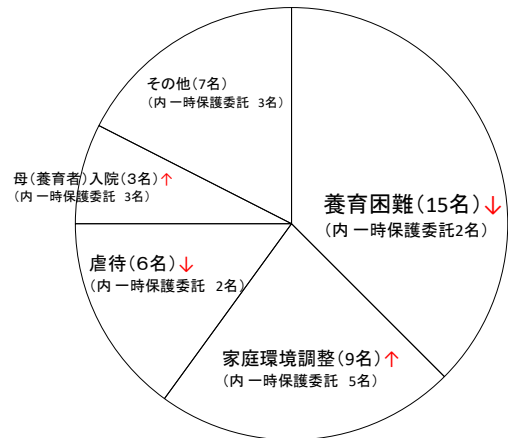


年少さんホーム
動物園に行きました

※赤矢印は前年度比の増減

措置定員 30名 (暫定定員なし)	
年間利用児数	40名 ↓
入所児数	19名 ↓
退所児数	21名 ↓
充足率	72.8% ↑
〔2026年3月31日調べ〕	

〔年間利用児 40名の入所理由〕



その他内訳：母勾留・母精神疾患・母の出産・養育拒否・経済的理由・未婚出産・香川児相から愛媛児相への変更

〔退所児 21名の退所理由〕

家庭引取	9名 ↓
施設変更	6名 ↑
里親委託	3名 ↑
ファミリーホーム	0名
一時保護から正式入所への変更	2名 ↓
香川児相から愛媛児相への変更	1名 ↑

《処遇について》

定員30名に変更となつてから2年目となる。入所受け入れのキャパシティについては28名を目標として受け入れ態勢作りをしていた

が、年間の平均在籍児童数は21.8名であった。これは、国の施策の反映であり、今後とも措置入所児の漸減傾向は続くと考えられる。

1. 〈愛着形成〉への取り組み

担当児と担当者との個別保育の時間を設け、さらに自立支援計画・個別支援計画・指導計画を策定して、それぞれの乳幼児の愛着形成の様子や実施方法を記録した。これらを毎月、多職種で確認・共有することで、各乳幼児に合った方法で愛着関係を築き、深めることができた。

2. 〈発達障害〉への支援

処遇職員・心理療法担当職員・個別対応職員が発達課題について確認し合い、日頃の保育に活かした。また、外部機関による毎月の巡回相談を受け、該当児の観察や担当者との話し合いの時間を設けた。さらに、他機関との連携も図り、それぞれの乳幼児に対して適切なケアを行うことができた。

3. 病虚弱児・被虐待児への専門的ケアの実施

主任看護師を配置したことで、病虚弱児等の症状に応じたケアを適切に実施でき、日常生活において異常所見が見られた場合には、速やかに医療機関と連携を取ることができた。

(事業報告2ページに続く)

(事業報告続き)

また、被虐待児や発達課題を抱える乳幼児に対しては、心理療法担当職員による心理療法や、個別対応職員による個別支援を実施した。さらに、直接処遇職員に対して日常的に助言・指導を行ったことで、乳幼児の心理面に関する観察スキルが向上し、生活場面での支援と連携すること、より厚みのあるケアを提供することができた。

4. 家庭支援機能の強化

経験年数を重ねた家庭支援専門相談員を1名配置し、「一時保護専用施設」担当者および「個別対応職員」と協力しながら、措置児童と家族の再統合に向けたきめ細やかな支援を行った。また、里親候補者・里親支援センター・児童相談所と密に連携しマッチングを図ることによって、里親委託を3件実施することができた。

5. 〈施設内幼児教育プログラム〉の推進

入所児が他施設を移動利用することで生じるリスクを軽減するため、施設内に必要な幼児教育の空間とカリキュラムを整備し、就学前教育のニーズに応えるプログラムを実施した。

6. 子どもの意見聴取等の仕組みの整備

子どもの意見聴取については、チェック表を用いて入所児が快適に生活できているかを確認し、その結果を自立支援計画の策定・見直しに反映させた。

7. 安全計画の実施

安全計画マニュアルに基づき、子どもの安全確保に向けた取り組みを実施した。具体的には、日中および夜間を想定した訓練、松山信望愛の家との合同訓練、停電対応訓練、不審者対応訓練を計画的に実施し、防災設備を効果的に活用できるよう指導した。また、2026(令和8)年3月には、マニュアルの見直しを行った。

《人的対策について》

ケアの質の向上を図るため、法人内研修・院内学習会を中心とした研修で職員のスキルアップを行った。外部研修は19件(オンライン研修5件を含む)であった。

《その他》

福祉サービス第三者評価を受審した。(2026年2月16・17日実施)

《苦情・要望》

2025年度はありませんでした。

2026年度

事業計画

【中長期展望・計画】

2025(R7)年3月に「愛媛県社会的養護推進計画」の全面的な見直しが行われ、里親委託率のさらなる引き上げが行われた。これに伴い、措置による入所数は更に減少し、代わって一時保護委託のケースが増加している。この傾向は少なくとも愛媛県が国の方針を受けて推し進める「社会的養護推進計画」の一応の達成目途である2029(R11)年度まで続き、これまでに予想して来た施設養護の減少はさらに進んでいくものと考えているのが妥当であろう。

こうした行政の方針を受けて、本施設としては今後の長期的対応として一時保護委託への対応を中心とした処遇計画を推し進めて行くべきと考える。また、措置入所の減少は職員定数の減少と措置費収入の減少につながり、それらへの対策を早急にとらざるを得ない。具体的対策としては、①(一時保護委託の積極的な受け入れ)②(個別的ケアによる愛着再形成)③(ケア機能の高機能化)

である。

「地域こども養育支援事業」への取り組みとして、「えひめ里親サポートセンターコインノニア」「コインノニアクラブ」との連携をこれまで以上に積極的に推進していきたい。

【本年度の事業計画】

措置児童数の減少の中、2024(R6)年度より定員数は措置児童数30名+一時保護専用施設(0~1歳児)6名となった。入所児については、平均在籍児数を措置22名・一時保護5名の計27名を目標とし積極的な受け入れを行う。

また、2024(R6)年4月1日から《一時保護専用施設》が開設され、積極的な一時保護委託の受け入れを実施している。今後は、2つ目の一時保護専用施設の開設を検討していく予定である。

【松山乳児院の今後の措置児童数の見込み】 ※愛媛県社会的養護推進計画より算出

年度	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)
措置児童数の見込み	見直し前 18名	17名	14名	12名	10名
	見直し後 16名	14名	11名	11名	9名

私たち2年目です！

Tさん【看護師】

乳児院で看護師として勤務し無事に2年目を迎えることができました。

子どもの健康状態の把握や疾病予防に加え、安心して生活できる環境作りの重要性を知り、子どもたちの生活の場を24時間体制で守るという責任の重さを感じました。日々の関わりの中で、小さな変化に気付き、適切な対応につなげられるよう努めていきたいです。

また、入所児の多くに虐待や養育困難が背景にあり、発達支援や心理・医療ケアなど多職種の連携が子どもたちの成長を支えていることを知ることができました。

月例会やホーム会など先輩方が目指す乳児院の役割を共に確認できる場を設けていただき、専門的技術や知識の向上となり、日々感謝しています。

マリア・モンテッソーリ「教育課程の正しさの一つの基準はその子どもが幸せかどうか」という言葉のよみに、私も先輩方と共に子どもたちの幸せへの歯車の一部になれるように努めていきたいです。



Oさん【保育士】

乳児院で働き始めて2年目となり、子ども1人ひとりの発達や気持ちをより意識しながら関わることができるようになりました。

日々の生活支援だけでなく、子どもが安心して過ごせる環境づくりの大切さを改めて実感しました。子どもの小さな変化にも気づき、より丁寧な関わりができるよう、職員と協力し、チームとして責任ある行動をしていきたいです。

Mさん【保育士】

入職してから1年が経ち、4月から2年目を迎えました。1年目は毎日が新しいことばかりで、保育するというより、業務をこなすことで精一杯でした。抱っここの仕方やオムツ



う1日1日を大切に取組んでいきたいと思っています。そして子どもたちが安心して笑顔で過ごせる環境を作れる

の替え方、食事介助、記録の書き方など、全てが分からないことだらけで、一つひとつ教えてもらいながら、先輩を見て真似してみるなど学びの毎日でした。

2年目になった今、少しずつ周りを見る余裕が生まれ、子どもたち一人ひとりの成長や気持ちの変化に気づけるようになってきました。笑顔を見せてくれたり、甘えてくれたりする姿に、日々の関わりの積み重ねの大切さを実感しています。また、

子どもたちの成長を間近で見守ることができるのは、この仕事の大きなやりがいです。昨日までできなかったことができるようになったり、新しい一面を見せてくれたりするたびに嬉しくなります。

まだまだ学ぶことはたくさんありますが、自分なりの保育ができるよ

よう、職員としても人としても成長していきたいです。

Kさん【保育士】



乳児院で働き始めて2年目を迎えました。1年目は目の前の子どもたちに寄り添うことで精一杯でしたが、2年目になり少しずつ子どもの小さな変化にも気づけるようになってきました。

子どもたち一人ひとりの成長のペースや個性を大切にしながら関わっています。泣いて気持ちを伝える姿、出来ることが増えて嬉しそうにする姿、職員を信頼して甘えてくれる姿など、毎日の小さな成長に関われることに喜びを感じています。

子どもとの関わりの中で、安心できる存在になることの大切さを学びました。これからも子どもたちの気持ちを受け止め、信頼関係を築きながら一人ひとりの成長を支えていきたいと思っています。

乳児院

絵日記

お買い物体験
真剣に選んでいます

☆まだ1歳になったばかりなのに、乳児にミルクを飲ませようとしたり泣いているとおもちゃを渡したりする姿を見て、ついこの前まで同じように泣いたりミルクを飲んだりして



避難車でおさんぽ

☆甘え上手な1歳1か月のHくん。抱っこをしてほしいときは、瞳をウルウルさせ、片膝を立てて手をパチパチとならしてアピールします。その必死さに、思わず笑ってしまいます。このかわいいポーズでねだられると誰しも断ることができません。

☆深夜勤務明けで帰る時に1階ホーム(2〜4歳児)を通っていたら、後ろから「お疲れさま」と声をかけられ、振り返って挨拶したら子どもたちでした。ふくざつな気分です。

いたのに...と成長に驚かされるともにとっても温かい気持ちになりました。言葉が伝わらなくても気持ちが伝わるんだと嬉しくなりました。



すくすく育ってね



公式ホームページ

メール・LINEは
こちらからどうぞ

相談無料

秘密厳守

匿名でも大丈夫

専門職が対応

関係機関連携

一人で抱え込まず、まず相談から

相談は無料です。秘密は守られます。

☎ 0898-35-1611

☎ 090-4787-2197

✉ メールでご相談

LINEで相談

「児童家庭支援センターあすなろ」
開設のお知らせ

4月1日、今治市に「児童家庭支援センターあすなろ」が開設されました。

児童家庭支援センターは、児童に関する家庭その他からの相談に応じ、必要な助言や支援を行うとともに、関係機関との連絡調整等を総合的にを行い、地域の児童、家庭の福祉の向上を図ることを目的とした相談機関です。

えひめ里親サポートセンター

コイノニア(エフスク)より

第3回エフスクフォーラムの

お知らせ

日時…10月11日(日)13時〜15時半

会場…松山東雲女子大学・短期大学

A1・1教室

基調講演「レジリエンス(復活力)は、

愛の力」

講師…福元テツロー氏



【公式 Instagram】



【公式 LINE】

【今後の行事予定】

7月 七夕・プール開き

8月3日コイノニア記念会

10月 地方祭

歯科健診・インフルエンザ

予防接種(11月)

11月 収穫感謝祭

児童健診

12月 クリスマス祝会

〒791-8016

発行所 松山市久万ノ台一七三
社会福祉法人コイノニア協会

松山乳児院

電話(089)922-9720